

第50回全日本教育工学研究協議会全国大会 東京都港区大会の開催にあたって



港区教育委員会教育長 浦田 幹男

第50回全日本教育工学研究協議会全国大会が、多くの関係する方々のご尽力により、東京都港区で開催されますことを心よりお祝い申し上げます。

港区は、現在130カ国以上の外国の方が、港区の人口の約8%にあたる2万2千人以上が生活しているほか、日本にある大使館の約半数が集まり、多様な文化が共生する、活気と賑わいにあふれる国際都市です。その一方で、都心にありながら、緑と水辺に恵まれ、江戸の昔から連綿と続く伝統が、今も息づいている街でもあります。

港区教育委員会では、GIGAスクール構想の実現に向け、令和2年10月末までに区立小中学校すべての児童・生徒及び教職員に1人1台のタブレット端末（iPad）を配備いたしました。以降、本区では、1人1台端末の環境下における令和の学びのスタンダードの構築に向け、各校の端末の利活用及び教育ICT環境の整備を積極的に推進してまいりました。令和5年度には、校内LANのネットワークを1Gbpsから10Gbpsの高速ネットワークに対応したものにし、NEXT GIGAスクールに向け、児童・生徒が、タブレット端末をさらに活用し、シームレスに学ぶことができる最先端の環境整備を行いました。

また、各学校では、タブレット端末を活用し、子どもたち一人ひとりに適した柔軟な指導を行い、学びを深める「個別最適な学び」に取り組むとともに、一人ひとりの異なる考え方にふれ、協力しながら問題解決を図る「協働的な学び」に取り組んでまいりました。児童・生徒が、タブレット端末をはじめとするICT機器に「慣れる」段階から「使いこなす」段階へとレベルアップを図り、1人1台のタブレット端末が日常化した新しい学びの実現を目指してまいりました。

大会当日の公開授業では、様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓く資質・能力を子どもたちに育むために、大会テーマ「NEXT GIGA ～創造性を育むICTを活用した新しい時代の教育を目指して～」にあるとおり、「個別最適な学び」や「協働的な学び」を一体的に充実させたNEXT GIGAスクールにふさわしい探究的な授業実践を皆様にご覧いただきたいと考えております。

授業公開校は、小中一貫教育校赤坂学園赤坂小学校・中学校、麻布小学校、白金小学校、小中一貫教育校お台場学園港陽小学校・中学校の4校です。区内の様々な地区を公開校とするとともに、中学校は、いずれも小中一貫教育校の公開といたしました。港区全体のICT教育はもとより、小・中学校の系統的な指導についてもご覧いただくことができると考えております。

ぜひ、これまでの研究や公開授業について、ご参会の皆様同士で熱心な協議を行い、有意義な時間を過ごしていただければ幸いです。公開授業や基調講演等を通して、研究を深められることは、今後の教育の情報化の一層の発展につながるものと大いに期待しております。

結びになりますが、本大会に携わっていただいた多くの関係者の皆様に厚くお礼申し上げますとともに、本大会のご成功と皆様の更なるご活躍を心から祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。

2024

vol.2

発行日 2024年7月22日
発行所 日本教育工学協会
発行人 高橋 純
制作協力 株式会社帆風
事務局
〒105-0001
東京都港区虎ノ門2-10-1
虎ノ門ツインビルディング
東棟1階
TEL: 03-5575-0871
FAX: 03-5575-5366
https://jaet.jp

第50回記念大会 全日本教育工学研究協議会全国大会東京都港区大会 「Next GIGA ～創造性を育むICTを活用した新しい時代の教育を目指して～」

JAET事務局

8月1日から事前参加申し込みを開始します。全国大会2日間の開催内容をご案内いたします。

1. 開催概要

開催日程：2024年10月25日（金）、26日（土）

会場：港区立小中一貫教育校赤坂学園赤坂中学校

公開授業校：港区立小中一貫教育校赤坂学園赤坂小学校・赤坂中学校／港区立麻布小学校／港区立白金小学校／港区立小中一貫教育校お台場学園港陽小学校・港陽中学校

主催：日本教育工学協会（JAET）

共催：港区教育委員会、（一社）日本教育情報化振興会（JAPET&CEC）

15：45～16：45 パネルディスカッション

「Next GIGA ～タブレット端末を活用した学びの変革 公開校4校の軌跡～」

コーディネーター：港区教育委員会 教育情報参事官 中川 哲氏

パネリスト：公開校4校 研究主任

18：00～20：00 情報交換会

(2) 大会2日目：10月26日（土）

【午前】

9：00～ 受付開始／企業展示見学

9：30～14：45 研究発表／企業ワークショップ

14：45～15：00 企業展示見学・休憩

【午後】

15：00～16：30（公財）パナソニック教育財団 設立50周年 第50回全日本教育工学協議会全国大会記念パネルディスカッション

「すべての子供たちが主語となる授業づくりとは～Next GIGAで創る本質に迫る授業～」

コーディネーター：日本教育工学協会会長、東京学芸大学 教授 高橋 純

パネリスト：富山市立藤の木小学校教諭

國香 真紀子 氏

春日井市教育委員会・教育DX推進専門官 水谷 年孝 氏

奈良市立朱雀小学校校長

柴田 純 氏

富山市立芝園小学校教諭

島崎 亜希子 氏

春日井市立高森台中学校教諭

岩川 奈未 氏

16：30～16：45 閉会行事

2. 大会日程（予定）

(1) 大会1日目：10月25日（金）

【午前】

公開授業

受付開始 8：30～9：20*

受付終了 8：30～9：40*

*学校により時間が異なりますので、全国大会ホームページをご確認ください。

【午後】

11：50（研究協議会終了*）～13：30 移動・昼食

*学校により時間が異なりますので、全国大会ホームページをご確認ください。

13：00～13：30 参加受付開始／企業展示開始

13：30～13：45 開会行事

13：45～14：00 学校情報化表彰式

14：00～14：45 50回記念講演／基調講演

「GIGAスクール構想の推進について」（仮）

文部科学省初等中等教育局学習情報基盤・

教材課 課長 寺島 史朗 氏

14：45～15：30 50回記念講演／特別講演

「教育工学協会のさらなる飛躍に向けて」

日本教育工学協会会長／東京学芸大学

教授 高橋 純 氏

15：30～15：45 企業展示見学・休憩

3. 公開授業内容

(1) 港区立小中一貫教育校赤坂学園赤坂小学校

9：20～9：40 受付

9：45～10：30 公開授業（14授業）

- 11:00～11:50 研究協議会
- (2) 港区立小中一貫教育校赤坂学園赤坂中学校
9:20～9:40 受付
9:45～10:30 公開授業（6授業）
11:00～11:50 研究協議会
- (3) 港区立麻布小学校
9:00～9:40 受付
9:45～10:30 公開授業（7授業）
10:50～11:50 研究協議会
- (4) 港区立白金小学校
8:30～8:50 受付
8:55～10:30 公開授業（25授業）
10:40～12:00 研究協議会
- (5) 港区立小中一貫教育校お台場学園港陽小学校
9:15～9:40 受付
9:45～10:30 公開授業（6授業）
10:40～11:30 研究協議会
- (6) 港区立小中一貫教育校お台場学園港陽中学校
9:15～9:40 受付
9:45～10:35 公開授業（3授業）
10:40～11:30 研究協議会

*実施内容等はホームページをご確認ください。

4. 研究発表

[9:30～12:00] / [13:00～14:45] (予定)

以下10のテーマの研究発表を予定しています。

- A. 情報活用能力の育成等
- B. 情報モラル、情報セキュリティ
- C. 教科指導におけるICT活用
- D. メディア教育、メディア・リテラシー
- E. 特別支援教育
- F. 教育・学習用ソフトウェア開発・評価
- G. 教員研修、教員養成
- H. 校務の情報化
- I. ICT支援員及びサポート体制の構築・運営
- J. その他

5. 企業によるワークショップ

[9:00～11:30]

- (1) (一社)日本教育情報化振興会
情報活用能力を育む授業づくり～模擬授業を通じて授業観をアップデートする～
- (2) (公財)教科書研究センター
デジタル教科書の新たな可能性を探る個別最適

な学びと協働的な学びにおける活用を通じて

- (3) NHK（日本放送協会）
自己調整学習を実現するには？ NHK for School
を活用して、子ども主体の授業をデザインする

[13:00～15:00]

- (4) BIPROGY
デジタルで支援する「これからの新しい学び」
のススメ～子供1人1人が主役の学びを実現する
技術・ツール活用～
- (5) (一社)日本教育情報化振興会
デジタルシチズンシップと情報モラル
- (6) コニカミノルタジャパン（株）
生成AI活用

6. お申込方法

参加には事前参加登録もしくは当日参加登録
が必要です。

- (1) 事前参加登録について
当会の東京都港区大会ホームページ（以下QRコ
ード）からお申込いただけます。
《事前参加登録の受付期間》
2024年8月1日（火）
～9月19日（月・祝）



《事前参加登録でお申込み可能な内容》

- a) 大会参加
 - b) 授業参観校（参観できるのは1校のみです）
 - c) 大会二日目のワークショップ
 - d) 大会二日間の昼食・お弁当（有料）
 - e) 情報交換会
- (2) 当日参加登録について
参加当日に会場受付にて参加登録行ってから
会場にご入場ください。ただし、公開授業の当
日受付はございませんのでご注意ください。
- (3) 参加費用・資料代

参加費は無料ですが、下表の資料代をご負担
いただきます。ご理解の程よろしくお願いた
します。

参加種別	事前登録	当日登録
一般	4,000円	5,000円
学生	3,000円	4,000円
港区内教育関係者/学生	無料	無料

※上記金額は資料代（非課税）です

学校情報化認定

チェックリストでの学校情報化認定



学校情報化認定委員会副委員長（先進地域担当）信州大学 准教授 佐藤 和紀

1. 学校情報化認定

日本教育工学協会（JAET）は、教育の情報化の推進を支援するために、学校情報化診断システムを活用して、情報化の状況を自己評価し、総合的に情報化を進めた学校（小学校、中学校、高等学校）を認定する学校情報化認定に2014年度から取り組んでいます。「情報化の推進体制」を整え、「教科指導におけるICT活用」「情報教育」「校務の情報化」に積極的に取り組んでいる学校を称え、学校情報化優良校として認定しています。

2. チェックリストに基づいた申請と自己評価

現在のチェックリストは2021年4月に「GIGAスクール構想対応チェックリスト更新版」として改訂されています。WEBサイトでもその内容を確認することができます。現在のチェックリストは「教科指導におけるICT活用」「情報教育」「校務の情報化」「情報化の推進体制」の категорияで構成され、各5項目のうちレベル0～レベル3で自己評価できる仕組みとなっています。本認定制度では、学校の情報化を学校の教職員がその状況を自己評価し、申請していただきます。その状況を踏まえて2名の審査員をシステムがランダムに割り当て厳正に審査を行い、優良校であると認めれば認定となります。ぜひ、申請前に情報担当・ICT担当のみの判断ではなく、教職

員全員でGoogleフォームなどを活用しながら自己評価し、その結果を基に議論してみたいかがでしょうか。認定された学校にお話を聞くと、管理職や情報担当、教育委員会の担当のみが申請のを知っており、他の教職員は知らないという状況も少なくありません。これでは本来の学校情報化認定の姿として望ましい状況だとは言いがたいと思います。学校の情報化はGIGAスクール構想や教員の働き方改革に直結しますので、事務職も含む全ての教職員で現状を把握し、日常の改善に努める体制を作っていくことが望ましい状況と言えるでしょう。

3. 認定状況

6月12日現在、2014年から2023年に優良校として認定した学校は3,068校となります。

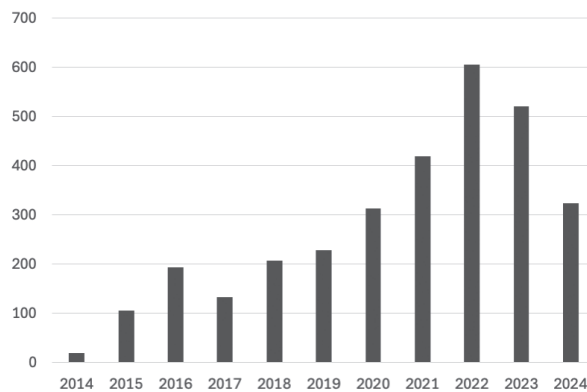


図2 2014～2024年度優良校

また、優良校が一定以上の割合になった地域を認定する「学校情報化先進地域」は40地域、「教科指導におけるICT活用」「情報教育」「校務の情報化」の中で優れた取組を行っている学校を表彰する「学校情報化先進校」は41校となります。その内訳は「教科指導におけるICT活用」が26校、「情報教育」が6校、「校務の情報化」が9校です。学習指導要領において学習の基盤として位置づけられている情報活用能力の育成を目的とした「情報教育」と、教員の働き方改革につながる「校務の情報化」が少なく、今後、力を入れて取り組む学校が増えて欲しいと考えています。

レベル	0	1	2	3
ICTの基本的な操作の習得	基本的な操作スキルを習得させるための指導内容や頻度が教員個々に任されている	基本的な操作スキルを習得させるための指導が計画的に行われている	学校全体の指導計画に位置付け、基本的な操作スキルを習得させるための指導が行われている	学校全体の指導計画に位置付け、基本的な操作スキルを習得させるための指導の効果について評価している
情報活用能力の育成・評価	情報活用能力の育成を意図した学習活動の内容や頻度が教員個々に任されている	情報活用能力を育成する学習活動が計画的に行われている	情報活用能力を育成する学習活動が指導計画に位置付けられ、学校全体として取り組んでいる	情報活用能力を各教科等の学習と効果的に関連付けて育成するためのカリキュラム・マネジメントが有効に働いている
プログラミング教育	プログラミングに関わる学習活動の内容や頻度が教員個々に任されている	プログラミングに関わる学習活動が計画的に行われている	プログラミングに関わる学習活動が指導計画に位置付けられ、学校全体として実施されている	プログラミングに関わる学習活動が指導計画に位置付けられ、学校独自で工夫しながら計画的に実施されている

図1 チェックリスト（抜粋）

学校情報化認定 優良校紹介

メンター制度を核とした学校情報化の取り組み



茨城町教育委員会 教育長 矢口 和美

1. はじめに

茨城町は茨城県の中央にあり、「未来志向のキラリと光る教育のまち」を目指して、ICT活用と学び合いを柱に授業改善を図っています。ICT活用を推進するために、これまで学校の情報化に向けた環境整備とICT推進教職員（メンター）を中心とした職員研修を推進してきました。町全体をあげて教育の情報化に取り組んだ結果、令和4年度に町内の全小中学校6校が学校情報化優良校に認定され、令和5年度には学校情報化先進地域となりました。

2. ICT環境整備と活用教育の推進について

茨城町では近隣の市町村に先駆け、平成28年から児童生徒用1人1台端末や校務支援システムを導入しています。電子黒板は令和2年に全普通教室に配置し、現在は全特別教室にも整備が完了しています。さらにAIドリルの導入やWi-Fi環境の高速化、各校へのICT支援員の派遣など、よりよい教育環境を整えるための施策を次々に打ち出しています。

ICT活用教育に関しては、継続して国や県の事業の研究指定を受け、教職員と児童生徒が共に新たな学びのスタイルに挑戦する場を意図的に設定しています。国の事業としては、令和元年に総務省「地域ICTクラブ普及推進事業」でプログラミング教育を全小中学校で実施しました。県の事業としては、令和元年の「小学校プログラミング教育支援事業」を皮切りに、連続して「授業力ブラッシュアップ研修」「学びのイノベーション推進プロジェクト事業」「小中学校における遠隔教育実証研究事業」（写真1）の実証研究校に取り組んできました。町内の学校が6校という規模を考えると、これだけたくさんの研究指定を受け



写真1 大学教授との遠隔教育

ている地域は他にないのではないのでしょうか。さらに、教育向け製品の展示会や、他の自治体の視察に学校施設整備担当者や教職員を派遣

し、常に最新の動向を学び町の教育に生かしています。

3. ICT推進教職員（メンター）制度について

茨城町の特徴ある取組として、各校2名のICT推進教職員（メンター）制度があります。メンターは各校のICT活用の中心的な役割を担っているほか、年6回のメンター会議にて教育長・指導主事・学校施設整備担当者との会議に出席しています。この会議はICT整備の課題や1人1台端末のよりよい活用方法について、教職員と教育委員会が直接意見交換する貴重な場となっております。毎回活発な議論がなされ、皆で改善策を考えて速やかに対応していく体制を整えています。

また、夏季休業中にはメンターが講師となり、町ICT実技研修会を実施しています（写真2）。管理職も含め、町内教職員は電子黒板の使い方からCBTテスト作成法などの8講座から、自分の習熟度や必要性に応じて受講することでスキルアップを図っています。令和5年度の教職員のICT活用指導力の実態調査（茨城県独自）において、茨城町はICT活用に関する質問16項目全てで肯定的に回答している教職員の割合が100%になっています。メンターを中心とする校内研修や町ICT実技研修会の成果が表われていると言えます。



写真2 町ICT実技研修会

4. 今後に向けて

今後も各校のメンターと教育委員会が連携し、ICT環境整備と教職員の研修を充実させ、その成果を児童生徒の教育に生かしていきます。学校情報化先進地域に認定されたことに満足するのではなく、学校情報化診断システムを活用した自己評価と改善を継続的に行うことで、教育の情報化のレベルアップを図り、町のICT教育と学び合いを柱とした教育を進化させていきます。

学校情報化認定 優良校紹介

目的意識・相手意識を働かせて表現できる児童の育成

～個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実を通して～

港区立白金小学校 研究主任 玉木 脩一



1. はじめに

本校は、創立149年の歴史と伝統を誇る、全校児童759名（令和6年5月現在）の学校です。全学年がタブレット端末としてiPadを使用し、学習ツールとしてはGoogle Workspaceを活用しています。今回は本校が取り組んでいる校内研究について紹介します。

2. 研究の経緯

本校は、令和4年度より「目的意識・相手意識を働かせて表現できる児童の育成」を目指した研究を進めてきました。児童が自ら伝えたいくなるような魅力的な言語活動を設定したり、一斉指導の中で表現の経験を蓄積したりすることに力を入れてきました。そして、昨年度の9月以降は、表現の「内容」と「伝え方」をさらに高めていくためには、一人一人の興味・関心や、学び方の特性に合った「個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実」が必要であると捉え直し、表題の通り副主題を追加して研究を深めていくことに舵を切りました。

3. 研究・実践を通して

これまでの研究授業や日々の実践を通して、目指す児童像の育成に向けた有効な指導法が明らかになってきました。魅力的な言語活動として、「1年生にレオ＝レオニの本を紹介することで、もっと読書の世界を広げてもらえるようにしよう」「明治学院大学の留学生に、自己紹介をすることで、自分のことを知ってもらえるようにしよう」「好きなものや大切にしているものを学級の友達と伝え合うことで、お互いをもっと仲良くなれるようにしよう」のように、「表現によって相手にどうなってほしいか」を見据えた言語活動を設定することで、目的意識や相手意識が働いた表現につながっていくことが分かってきました。また、表現に関する思いや考え、表現技能や習熟の程度、学習に必要な時間などが個々に異なることから、自由進度学習を取り入れ、個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実を図ることが大切であると分かりました。自由進度学習では、「内容」の充

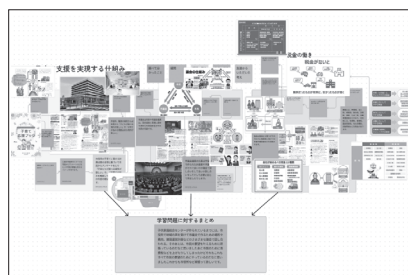


写真1 FigJamを使った「子育て支援を実現する政治」についてのまとめ

実を図るために、スライドやFigJamを使って情報を整理したり、まとめたりしています（写真1）。また、

「伝え方」の充実を図るために、ビデオや録音機能を使って一人で練習したり、ペアで視点に沿った助言をし合ったりしています（写真2）。そして、スプレッドシートを用いて、「めあて・学習チェックシート→学習活動→振り返り」と主体的な学びが循環するようにすることも大切にしています。



写真2 協働的な学びを通して高め合う様子

4. 教員の意識・学び方の変革

日々の実践の蓄積こそが目指す児童像の育成につながると考え、教員それぞれの実践をチャットに上げて共有し、学び合う環境を整えました。また、研究授業では、単元構想の段階から情報を公開して意見を募集したり、本時に至るまでの学習経過をその都度公開したりして、本時だけの研究にとどまることがないように留意しています。教師自身の学び方が、児童の学び方につながると考え、教員自身もスプレッドシートを用いて、めあてや振り返りを記述し、教員一人一人が目的意識をもって研究に取り組むことができるようにもしています。

5. 終わりに

令和6年10月25日（金）には、JAET全国大会東京都港区大会において、本校の実践を紹介させていただきます。主体的な学びに取り組む児童と教師の姿をご覧いただければと思います。

開催報告

第3回「教育の情報化」実践セミナー 2024in東京 (全国大会東京都港区大会プレ大会)

JAET常任理事／和歌山大学教職大学院 教授 豊田 充崇



1. はじめに

当セミナーは、本年10月25、26日に実施される第50回全日本教育工学研究協議会全国大会の「プレ大会」として、2024年2月28日(水)に、東京・港区立小中一貫教育校赤坂学園赤坂中学校の体育館にておこなわれました。地元の港区教員をはじめ、平日にもかかわらず全国からも大勢の参加者(約200名)があり、大会関係者・協賛企業の皆様と共に熱気に包まれた会となりました。

2. 講演

全国大会のテーマである『Next GIGA ～創造性を育むICTを活用した新しい時代の教育を目指して～』における「創造性」というキーワードに焦点を当てて講演させていただきました。

新しい映像表現の手法、創作的なプログラミング、3Dプリンタの活用、生成AI活用によるデジタル絵本の作成まで、児童生徒らが生み出す「デジタルなもののづくり」の事例を多数紹介しました。また、表現・発信を前提にしたカリキュラムなど、イノベティブな事例を通して、児童生徒等の秘めた潜在能力、創作意欲をどのように引き出す(解き放つ)のか、学校で協働的におこなう創作活動の意義は何かといった点にも着目しました。

3. 研究校経過報告

授業研究経過報告が全国大会での公開授業校4校によって実施されました(詳細は次頁以降)。

各校ともに既に、児童生徒等の情報活用能力の醸成や新たな授業形態の工夫(特に複線型授業の展開)等は完成の域に達しており、いわゆる「個別最適な学び」における「指導の個別化・学習の個性化」へのアプローチがなされておりました。

さらなる創造的な学びや、創作的な活動への展開に期待がかかります。

4. 企業セッション

今回15社もの協賛企業に出展いただき、体育館内を取り巻く各ブースは全国大会さながらの様相でした。プレ大会では、「最新ICT機器・教育コンテンツ体験ワーク」の時間を設け、参加者は、各商品やサービスの「オススメポイント」をワンフレーズでクラウド上の共有ノートに書き込みました。参加者らが感じ取った興味・関心を、短時間に出展者にもフィードバックすることができました。教育現場の先生方からは、普段あまり触れることのない教育コンテンツや最新機器の情報を効率的に且つ現場目線で知ることができたと好評でした(写真1)。



写真1 出展企業ブースの説明を聞いて回る参加者の様子

5. 全国大会に向けて

当プレ大会では、既に着々と進む公開校での授業研究の成果が発表され、協賛企業らの協力・連携、実行委員会の結束も確認できました。全国大会への着実な準備が進んでいることを実感し、その成功を確信する日でもあったと思います。

2020年度から開始されたGIGAスクールはその導入期を経て「第二期」に向けた端末更新の検討が本年度中になされようとしています。このターニングポイントともいえるべき年度に、当全国大会は50回の大きな節目を迎えますが、まさに「Next GIGA」=「新しい時代の教育」の指針を示す大会となるのではないかと期待しております。

目的意識・相手意識を働かせて 表現できる児童の育成

港区立白金小学校 指導教諭

玉木 脩一



学習者主体の授業への転換

港区立小中一貫教育校お台場学園
港陽小学校・中学校 主任教諭

森 晋



本校は個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実を通し、「目的意識・相手意識を働かせて表現できる児童の育成」を目指す研究に取り組んでいます。

表現に向け、「内容」と「伝え方」の充実を図っていくのですが、そこで学ぶ一人一人が目指す姿や課題は当然、皆、異なります。そのため、個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実が欠かせません。

今年度は、5月末までに、第4学年 国語科、第5学年 国際科（外国語）、第2学年 国語科で研究授業を行い、①児童が目的意識・相手意識を働かせて表現したくなる魅力的な言語活動の設定、②「内容」や「伝え方」を充実させるための個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実について、具体的な指導や支援の在り方について研究を進めてきました。

①では、好きな本を学級の友達に紹介したり、おすすめのレオ＝レオニの本を下級生に紹介したりして読書の楽しさを広げてもらうことや、近隣大学の留学生に自己紹介することといった言語活動を設定しました。②では、Googleスプレッドシートを活用し、めあて・学習状況・振り返りを蓄積・共有する仕組みが本校全体に定着し、児童の主体的な学びが促進されるようになりました。また、Googleスライドやドキュメント、ワークシートなど、児童が自身の学びやすさに合わせて選択したり、協働的に学んだことを一人一人の学びに生かしたりする姿も見られました。



写真1 協働的な学びを通して伝える内容や伝え方を高め合う様子（2年生）

教師自身も児童同様に学ぶことを大切にしています。日々の実践をGoogle Chatで共有したり、FigJamを活用して研究協議を進めたりするなど、教師自身の学び方にも大きな変化が生まれています。

東京大会では、主体的な学びに取り組む児童と教師の様子をご覧いただければと思います。たくさんのご参観を心よりお待ちしております。

本校では「自ら考え、主体的に学ぶ児童生徒の育成」を目指して校内研究を行っています。小学1年生から中学9年生（3年生）まで体系的に、探究のプロセスを意識した授業を行うことで、学習者主体の授業になると考えています。実現を目指した取組を紹介します。

①研究主任の例示
「学習者主体の授業」について講師の指導を受け、研究主任による提案授業を行いました。それぞれの学年、教科でどのように取り入れられるのかを検討しました。

①研究主任の例示

②相互授業参観
小学1年生から中学9年生（3年生）まで体系的な授業スタイルの構築を目指し、異校種、異学年、異教科で少人数班を作り、授業参観をしています。

②相互授業参観

③授業の振り返り
指導の工夫が実施できているか、月に一度、チェックシートを活用して、自らの授業を振り返っています。また、自らの授業の実践を資料にまとめ、それを全教員で共有し、お互いの実践について話し合い、深め合っています。

③授業の振り返り

④情報の時間の創設
1年生から6年生は毎週火曜日の朝学習（15分間）の時間を使って情報活用能力の育成に向けた取組を実施しています。

④情報の時間の創設

本校は小中一貫校であり、児童生徒が同じ校舎で学校生活を送っています。小学校の教員も中学校の教員も同じ職員室で仕事をし、同じテーマで研究を行うことが本校の大きな特徴です。小学1年生から中学9年生まで発達段階の違いはありますが、児童・生徒にとって最も効果的な学習の方法を考えて、一丸となって校内研究に取り組んでいます。

8 NEWSLETTER No.148

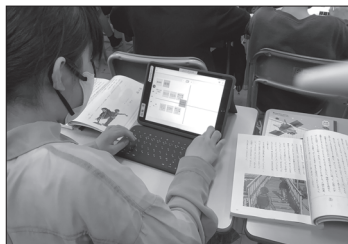
児童と教師が創る 協働的な授業とは

港区立麻布小学校 校長

宮島 淳一



港区立麻布小学校は研究主題を「主体的に考え、豊かに表現する児童の育成 ～ICT機器を活用した授業デザインを通して～」に据えて取り組んでいます。ICTを活用する授業スタイルの視点として、「学習の流れを児童が理解している」「学習状況をリアルタイムで共有している」「学習形態を自由に児童が選択している」という3点から授業研究を進めてきました。当初は、「学習の流れをどのように示すのか」「共有するためにICTをどのように活用するか」「複線型学習の選択肢をどのように準備するのか」といった問題解決の学習過程の中でのICTコンテンツの内容とGoogle関連のアプリ使用の仕方において研究を進めました。授業の流れとアプリ使用に児童が慣れてきた今、「児童の主体性をどのように引き出し、活動を走らせるか」という教師の関わり方に課題をシフトチェンジして、以下の3点に軸を置いて実践を進めています。「1. 児童の学習を支える『問い』をどのようにもたせるのか（問いの吟味）」「2. 児童に学習を委ねた上でどのように支えるか（一人一人の児童の探究活動を支え、協働的な学びに導く指導者の言葉掛け）」「3. 学習の深化に向かう思考の仕方とICTリテラシーを日常的にどのように育成していくか（思考ツール・ICTリテラシー・情報モラルの日常的育成）」です。これらの課題は、まさに教師自身が自分の指導力と対峙せざるを得ず、改善の道は平坦ではありません。しかし、チーム麻布として一丸となってチャレンジしています。それに加えて、港区で導入されている各教科のデジタル教科書の利便性も十分に活用したいと考えています。



教員のチャレンジする姿、児童の主体的に学ぼうとする姿をぜひご覧にお越しください。

令和6年の第50回全日本教育工学研究協議会全国大会東京都港区大会が10月25日（金）に行われます。

実践セミナー 2024 in 東京 全国大会東京都港区大会プレ大会

港区立小中一貫教育校赤坂学園赤坂小学校・中学校 校長

高松 政則



1. プレ大会の概要

令和6年2月28日（水）に第50回全日本教育工学研究協議会全国大会（東京都港区大会）プレ大会が港区立小中一貫教育校赤坂学園を会場に開催されました。

本大会は、記念すべき50回大会の研究経過報告会として開催されたもので、当日は230名を超える参加者が集まりました。基調講演では、JAET副会長である和歌山大学、豊田充崇先生による「GIGAスクールの展望と全国大会公開校への期待」についての講演やICT機器やアプリケーション、コンテンツについての体験等が実施されました。

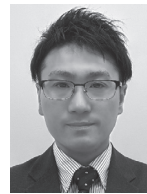
2. 実践の報告

当日は4校（麻布小学校、白金小学校、お台場学園港陽小・中学校、赤坂学園赤坂小・中学校）がそれぞれ実践の報告をしました。教育DX化に向けた取組や、授業のリデザイン、実践を進める中での悩み等について、具体的に語られました。また、実践発表も対話的に行いたいという考えの下、フォームやPadletを活用し、能動的に参加できる場としました。会場のみなさんから寄せられたコメントでは、「さらによい実践のための指針」について語られたり、「成績や評価についてどうすれば良いか」といった実践をする中での悩みなどを共有することができました。



今回の報告を経て、4校の課題も明確になり、お互いの授業を参観したり、チャットで意見交換をしたりと、それぞれの学校での実践を深めています。全国大会に向けて準備を進めていますが、それ以上に、「教育の情報化」の本質に触れることで、教師として教育とはどういうものかという教育の本質にも触れているという感覚を得ることができました。10月の大会では、その熱意や想いも、当日みなさまにお伝えできればと思っています。

初等中等教育における情報教育やSTEAM教育・テクノロジー教育の拡充



宮城教育大学 准教授 板垣 翔大

1. はじめに

人工知能 (AI) の飛躍的な進化に代表されるように、テクノロジーの進歩が著しいです。今の小学校1年生の定年退職 (65歳を想定) は2082年ですが、この頃の社会や生活は想像することすら困難です。VUCAの時代を児童生徒が生涯にわたってよりよく生きるために、テクノロジーを単なる消費者として使用するだけでなく、問題の解決や新たな価値の創造のために活用することが必要です。またそのために、テクノロジーをブラックボックスのままにせず、ある程度の仕組みを理解したり、問題を解決したり価値やものを生み出したりする経験や学習が必要であるといえます。

2. 「小学校情報科」の取り組み

文部科学省の研究開発学校の指定を受け、宮城教育大学附属小学校では、「小学校情報科」の構築に取り組んでいます。各学年年間20~35時間で、「A コンピュータの仕組み」「B ネットワーク技術」「C アナログとデジタル」「D データと分析」「E メディアの特徴」「F プログラミングとアルゴリズム」「G コンピューティングと社会との関わり」に加え「情報モラル」「情報デザイン」の要素を学習しています。

例えば、低学年ではマス目を塗りつぶして絵を描くことで画像のデジタル化を体験したり、画像ファイルには目に見えない情報 (Exif情報) が含まれていることに気づいたり、情報の科学的な理解につながる体験的な学習をしています。中学年では、アンケートの作成を通してデータの収集や分析について学んだり、プログラミングをしながら情報検索の仕組みを学んだり、具体的な方法や仕組みを捉えます。高学年では、暗号化の技術などより高度に学びながら、下級生を対象にニーズ調査・設計からプログラミングによるプロダクトの制作・試用や評価・改善まで、それまでの学びを生かした問題発見・解決的な活動をしています。

3. STEAM教育やテクノロジー教育の拡充

日本産業技術教育学会は、初等中等教育における

STEAM教育の導入とテクノロジー教育の拡充・刷新について、要望声明を公表しました。ここでは、①小学校、中学校、高等学校におけるSTEAM教育の導入、②小学校、中学校、高等学校におけるテクノロジーに関する教育の充実、③中学校における新教科「テクノロジー科」(仮称)の設置の3点が示されています。

①では3Dプリンタやプログラミングロボット教材などのデジタルものづくり教材を活用できる環境の整備も含めて、実社会の問題について深く探究したり、デザイン思考を働かせてその解決策を創造的に具体化する学びが期待されています。②では、エンジニアリングの見方・考え方、すなわちテクノロジーを用いて最適な人工物を探究・創造する際に働かせる工学的な見方・考え方を働かせた形での、プログラミング教育の拡充やものづくりの技術と融合したICTに係る教育課程の刷新、情報システム開発の学習などが期待されています。③では、中学校技術・家庭科技術分野を再編して、各学年70時間を配当して、ICTとそれを基盤としたものづくりの技術との融合を図る学習内容が期待されています。

4. おわりに

リテラシーとしての情報活用能力は現行の学習指導要領で学習の基盤となる資質・能力として位置づけられ、プログラミング教育も含めて教科等横断的に進められています。今後さらに情報化が進むことを考えれば、発展的な情報活用能力の育成やプログラミング教育、テクノロジーやエンジニアリングの視点に立った問題発見・解決的な活動を行うための時間や、それに向けた実践の蓄積や体系化が必要といえます。

参考文献

日本産業技術教育学会 (2024) 初等中等教育におけるSTEAM教育の導入とテクノロジー教育の拡充・刷新について。 https://www.jste.jp/main/teigen/240528_statement.php (2024.06.18現在)

賛助会員紹介



こどもの夢をお手伝いします

学映システム

Gakuei System

佐賀本店 佐賀県佐賀市鍋島町大字森田 902 番地 TEL0952-34-5280

唐津営業所 佐賀県唐津市和多田用尺 12 番 39 号 TEL0955-70-2270

福岡営業所 福岡県福岡市博多区千代 2 丁目 1 番 15 TEL092-260-7664

武雄支店 佐賀県武雄市武雄町大字永島 15877 番地 1 TEL0954-22-4124

久留米営業所 福岡県久留米市東合川 8 丁目 8 番 21 TEL0942-41-4315

沖繩営業所 沖縄県島尻郡与那原町字東浜 80 番 4 TEL098-917-2707

READY For NEXT GIGA ?

あっ！ ネットが切れた！

GIGAスクール端末の更新には、通信環境の評価、及び整備計画が補助要件となっています。増大するトラフィックに備え、校内ネットワーク環境の見直しをするなら**今がチャンス**です！

富士通Japanでは、学校向け**ネットワークアセスメント**の実施から最適なネットワーク提案・構築までトータルにご支援いたします

お問合せ・資料請求

富士通Japan株式会社（お客様総合センター）
 お電話でのお問い合わせ：**0120-835-554**（通話無料）
 受付時間 9時～12時、13時～17時30分
 （土曜・日曜・祝日・当社指定の休業日を除く）

<https://www.fujitsu.com/jp/solutions/industry/education/school/offering03/>

© 2024 Fujitsu Japan Limited